

11:14 こうして【主】は、ソロモンに敵対する者としてエドム人ハダドを起こされた。彼はエドムの王の子孫であった。

11:15 ダビデがかつてエドムにいたころ、軍の長ヨアブが戦死者を葬りに上って行き、エドムの男子をみな打ち殺したことがあった。

11:16 ヨアブは全イスラエルとともに六か月の間そこにとどまり、エドムの男子をみな絶ち滅ぼしたのである。

11:17 しかしそのとき、ハダドは、彼の父のしもべである数人のエドム人と逃げてエジプトへ行った。当時、ハダドは少年であった。

11:18 彼らはミディアンを出発してパランまで行き、パランから何人かの従者を従えてエジプトへ、エジプトの王ファラオのところへ行った。するとファラオは彼に家を与え、食糧を支給し、さらに土地も与えた。

11:19 ハダドはファラオにことのほか気に入られ、ファラオは自分の妻の妹、王妃タフペネスの妹を彼に妻として与えた。

11:20 タフペネスの妹は、彼に男の子ゲヌバテを産んだ。タフペネスはその子をファラオの宮殿で育てた。ゲヌバテは、ファラオの宮殿でファラオの子どもたちと一緒にいた。

11:21 ハダドは、ダビデが先祖とともに眠りについたこと、また軍の長ヨアブも死んだことを、エジプトで聞いた。そこでハダドがファラオに「私を国へ帰らせてください」と言うと、

11:22 ファラオは彼に言った。「おまえは、私に何か不満があるのか。自分の国へ帰ることを求めるとは。」するとハダドは、「違います。ただ、とにかく私を帰らせてくださ

い」と答えたのである。

11:23 神はまた、ソロモンに敵対する者として、エリヤダの子レゾンを起こされた。彼は、自分の主人、ツォバの王ハダドエゼルのもとから逃亡した者であった。

11:24 ダビデがハダドエゼルの兵士たちを殺害した後、レゾンは人々を自分のところに集め、略奪隊の隊長となった。彼らはダマスコに行ってそこに住み、ダマスコを支配した。

11:25 彼は、ソロモンが活着している間、ハダドのように悪を行ってイスラエルに敵対し、イスラエルを憎んだ。こうして彼はアラムを支配した。

栄華を極め王国を築いたソロモンは、誰の目にも安泰に見えたことでしょう。しかし人には見えないところに様々な敵や問題が隠れているものです。ハダドやレゾンもまた同じです。彼らの敵対はソロモンに原因があるわけではありませんが、しかし彼の大きな妨げとなるのです。

ソロモンは初めは自分の王としての使命の重大さに、謙遜に力不足を認めて、主から知恵を求めて主に従いましたが、安心するとだんだん主から離れてしまいました。これはクリスチャンの陥りやすい罠です。しかし忘れてはならないことは、決して神様を忘れても良いほどの安心などはこの世にないということです。

ソロモンでさえ、見えない問題が存在したのです。私たちは見かけのまたはつかの間に安心によって神様を忘れないようにしましょう。今は気付いていなくても、この先障害になるような問題はいくらでもあるのだと認識しましょう。祝福されているときでも、主が必要ですとへりくだりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

